

話し手の気持ちを伝える日本語表現について

本田 晶治
JICA Silver Expert
Diponegoro University

ABSTRACT

In this paper, we discuss how people are conveying their feelings to each other in their daily communication. In Section 2, we see certain instances where people can convey their feelings without words. In Section 3, we discuss that people convey their feelings directly and explicitly, using lexical words, and also at the same time, they utilize extra-linguistic elements, such as facial expressions, eyes, gestures, body movements, vocal tones, intonation and so on. Moreover, there are many expressions in Japanese that signal the speaker's feelings, not by single lexical words but by some combinations of expressions. We pick up some of those expressions, and discuss what feelings they convey.

Key words: feelings, silent communication, extra-linguistic, Japanese

1. はじめに

人がある物事を伝えるとき、その物事に対して好感をもった態度で伝えるか、あるいは反感をもった態度で伝えるか、もしくはそのどちらでもない、中立的な態度で伝えるものである。そして、この3つの態度、両極と中間の間には連続した強弱の度合いがある。

この伝えるときの態度は「気持ち」と言い換えることができるが、本稿では人と人との気持ちの伝え方、伝わり方について、言語的、非言語的側面から考察を試みる。

2. 沈黙のコミュニケーション¹

気持はことばがなくとも伝わる。逆説めくが、本節ではまずこの種の事例を取りあげる。次の事例はことばがまったく使われずに気持ちが伝わりうることを示している。²

いま二人は、沖縄の大学に職を得て「お互いやりたいことをやる」生活にもどっている。だから一緒に楽しいという。先月下旬、彼女はドイツ

での公演のため、十日間ほど日本を留守にした。その時、「智子は『ついてきて』とは絶対に言わなかったけど、そう思ってる感じはわかったから」と彼はつきそった。

「二人の連携はうまくいっている。クラシックにとどまらず、新しいものを試してみたい」とバイオリンのローラ・ブラウチは言う。ハーバード大学卒業後に音楽の道に入った才媛だ。「生い立ちや興味が似ている、言わなくてもわかりあえる感覚がある」と、チェロのクリスティーナ・レイコ・クーパーも言う。

上例はともに音楽の演奏家同士の間柄であるので、音楽家の間では、ことばではなく、楽器の演奏を通してコミュニケーションが成立する世界であるという特別な場合と言えなくはない。しかし、長年連れ添ってきた夫婦の間には会話らしい会話がなくとも気持ちが通じ合っているものだという話は、日本ではよく聞かれることである。

次の事例では、問いかけられても相手が沈黙のままで時間が流れるが、相互に共通理解が成立していると思われるコミュニケーションである。

昭和24年の春、折口信夫は民俗学の師の柳田国男を東京・成城の家に訪ねた。柳田は喜んで成城の町や近郊の桜を共に見て歩いたのち、自宅の書斎に帰り、沈痛な表情で折口に問いかけた。「ねえ折口君、戦争中の日本人は桜の花が散るようにいさぎよく死ぬことを美しいと考え、われわれ老人もそれを若者に強いたのだった。これほど死を美しいと考える民族は日本人のほかにも居たかもしれないが、みな早く滅びてしまって、偶然、海に囲まれて外敵から守られてきた日本人だけが、残ったのではないだろうか。あなたはどう思いますか」

折口も一言も答ええないまま、沈黙の中で対座していた。そばに居る私が居たたまれぬほど、重い時間だった。いま、平和の桜の下で、この時の思い沈んだ二人のすぐれた民俗学者の心の底を考えてみる人が多い。

「以心伝心」は日本人の間でよく知られていることばである。これは仏教の禅の教えの「不立文字」「以心伝心」から来ており、禅の真理は文字に頼らず、心と心がぴたりと呼応することで伝わるという意味であるが、禅の教えから離れて、日本人の間には以心伝心で伝わることを理想とする考えがある。黙っていてもわかりあえることを至上とし、むしろことばは相互の気持ちの通い合いには邪魔になることが多いと言われることもある。こうした沈黙のコミュニケーションは、日本人のコミュニケーションに特徴的というわけではない。英語にtacit understanding（暗黙の了解）がある。

3. 日本語の気持ちを伝える表現

日本語のことばによる気持ちの伝え方には、動詞（「安心する、うきうきする、心配する、疑う、驚く、感謝する」など）、イ形容詞（「うれしい、憎らしい、くやしい、ありがたい、しかたがない、うらやましい」など）、ナ形容詞（「残念だ、無意味だ、好きだ、嫌いだ、不愉快だ、勝手だ、深刻だ」など）、名詞（「喜び、哀しみ、怒り、楽しみ、疑い、賛成、驚き」など）、副詞（「いそいそと、いきなり、きっと、たんまり、ちょっと、てんで、まんまと」など）などの語彙を使って直接的、明示的になされる場合³や、コンテキストの働きや、表情、視線（目つき）、しぐさ、動作、態度、口調、抑揚といった言語外的要素の働きが複雑に加わって、伝えられる場合がある⁴。話し手がその意図をもたなくとも、聞き手はそういった要素から話し手の気持ちを推測することが多い。

ところで、日本語には話し手の気持ちを語彙的に推測することがむずかしい表現が数多く存在する。本節では、そのような表現のうち興味深い例をいくつかを取りあげ、それらがどのような気持ちを表現しているかを考察する。⁵

1) 「あれで」

次の例の「あれで」は、ある人物や事物について、表面的な印象と違って、実際のありようはよいという話し手の好意的な気持ちを言う。

あの人はいつもきついことばかり言っていますが、あれでなかなか優しいところもあるんです。

彼女、体は小さいけど、あれでけっこう体力はあるのよね、

あのレストランって、一見汚くてまずそうに見えるけど、あれでなかなかいけるんですよ。

ところが、次の例の「あれで」は、意外感や話し手の否定的な気持ちを言う。

あのコート、あれで4万なら安いものだ。

え、彼女あれでスキー初めてなんですか。すごくうまいじゃないですか。

今日の食堂の定食、あれでよく改善したって言えるよね。まるで豚のえさだよ。

この二つの「あれで」で表される話し手の気持ちは、コンテキストに依存することはもとより、以下の会話例に見られるように、「あれで」が言われるときの語調、話し手の表情などが大きな手がかりとなる。

A: あのレストランって、一見汚くてまずそうに見えるけど、あれでなかなかいけるんですよ。

B: え！あれで？！

2) 「てこそ」「ばこそ」「からこそ」「それでこそ」

動詞テ形に強調を表す助詞「こそ」がついた「～てこそ」は、以下の例が示すように、よい結果をもたらす行為を強調する表現であるが、ここには話し手の行為に対する肯定的、好意的な気持ちがこめられている。

一人でやってこそ身につくのだから、むずかしくてもがんばってやりなさい。

この木は雨が少ない地方に植てこそ価値がある。

互いに助け合ってこそ本当の家族といえるのではないだろうか。

この「てこそ」は、よい結果を招いた理由ともとれる場合は「ばこそ」で言い換えることができる。（『日本語文型辞典』p.253）

今あなたがこうして普通に暮らせるのは、あの時のご両親の援助があってこそですよ。

今あなたがこうして普通に暮らせるのは、あの時のご両親の援助があればこそですよ。

助詞「ば」に「こそ」がついた「ばこそ」は、以下の例が示すように、理由や原因を強調する表現である。

すぐれた教師であればこそ、学生からあれほど慕われるのです。

体が健康であればこそ、つらい仕事もやれるのだ。

問題に対する関心が深ければこそ、こんなに長く研究を続けてこられたのだ。

あなたを信頼していればこそ、お願いするのですよ。

家族を愛すればこそ、自分が犠牲になることなどはおそれない。

「ばこそ」と同じく、理由や原因を強調する表現に「から+こそ」がある。

これは運じゃない。努力したからこそ成功したんだ。

A：君はぼくを正当に評価していない。

B：評価しているからこそ、もっと
まじめに やれと言っているんだ。

愛が終わったから別れるのではなく、愛するからこそ別れるという場合もあるのだ。

忙しくて自分の時間がないという人がいるが、私は忙しいからこそ時間を有効に使って自分のための時間を作っているのだ。

『日本語文型辞典』 p.499に

「からこそ」は、原因・理由がプラス評価・マイナス評価のどちらのことがらの場合でも使うことができるのに対し、「ばこそ」はマイナス評価のことがらが原因・理由となる場合には使いにくい。

と述べられていて以下の例があげられている。

- (誤) 体が弱ければこそ嫌いなものも無理して食べなければならない。
- (正) 体が弱いからこそ嫌いなものも無理して食べなければならない。

上例に関していえばたしかに「ばこそ」は使いにくいですが、以下の例が示すように、プラス評価（肯定的評価）か、マイナス評価（否定的評価）かの判定がむずかしい例もかなりある⁶：

情報化社会であればこそ、大人から範を示していきたいものだ。
明治維新も外圧があればこそ成し遂げられた。

こうした厳しい状況であればこそ、政府には数値目標を掲げるだけでよしとせず、雇用づくりの面から既存の施策を見直す姿勢がほしい。
インターネットや伝言ダイヤルには匿名だからこそ、親密なつきあいができるという面がある。それは良い面だ。

絵本と紙芝居は子どもの個性と共感を育てる車の両輪です。共感する力が失われつつある時代だからこそ、紙芝居の重要性は大きい。
政府は細かな点まで正確に伝える義務があるからこそ、直接の担当者が答える必要がある。

また、次の例では一文中に「ばこそ」「からこそ」が並んで使われている。

人間であればこそ嘘をつくのもであり、嘘をつくからこそ人間なのだ。

こうした使用例を見ると、「ばこそ」が否定的評価を表す文には使いにくいという観察はさらに綿密な調査が必要と思われる。

ついでに、「それで」に強調の「こそ」がついた「それでこそ」という表現は、もっぱら話し手が人物や事物を高く評価している気持ちを表すのに使われる。

彼は部下の失敗の責任をとって、社長の座を降りた。それでこそ真のリーダーと言える。

- A: あの大学、卒業するのがむずかしいそうだよ。
- B: それでこそ本当の大学だね。
- A: 今度のコピー機は、まったく人手がいないそうだ。
- B: それでこそオフィス革命といえるね。今までの人は人を忙しくさせるだけだったから。

3) 「～が～だから」「～が～なら、...も...だ」「～が～だけに」

「～が～ {だから／なので／だし／だもの、など} 」という形の表現で、「～」には同一の名詞がくる。同語反復表現による強調表現で、「～」で表される物事に対する話し手の否定的な気持ちを強調する。

親が親だから、子供があんなふうに生意気になるのだ。

もう時間が時間だし、今から行ってもあのレストランは閉まっているかもしれないよ。

A: 再就職しようと思ったけど、なかなかむずかしいわ。

B: そりゃ、年が年だもの。37の女なんか今どきどこも雇ってくれなわよ。

「～が～なら、...も...だ」という形の表現で、「～」と「...」にはそれぞれ同一の名詞がくる。同語反復による強調表現で、「～」も「...」もよくない、困ったものだという話し手の否定的な気持ちが表れる。

この生徒はいつも教師に口答えばかりして困る。親もすぐ学校にどなりこんでくるし、まったく、親が親なら子も子だ。

まったく、おじさんがおじさんなら、おばさんもおばさんだよ。おじさんが頑固なのはわかっているんだから、嘘でも「ごめんなさい」って言えば喧嘩なんかすぐにおさまるのに。

また、「～が～だけに」という形の表現も、「～」には同一名詞がくる同語反復表現による強調表現だが、この表現の場合、表現自体に話し手の気持ちが表れるわけではなく、話し手の気持ちが肯定的か、否定的かは後続のことばが来るまで分からないというところに、上記二つの同語反復表現との違いがある。

(『日本語文型辞典』p.67)

ここの料理は、素材が素材だけに味も格別だ。

この店は味は大したことはないが、場所が場所だけにたいいいつも満員だ。

学長が収賄容疑で逮捕された。今までも小さな不祥事はあったがマスコミには騒がれないよう注意してきた。しかし、今回はことがことだけに、マスコミの取材からは逃れられないだろう。

4) 「いくら～たところで」

「動詞タ形+ところで」は、行為の結果はわかっているというあきらめの気持ちや、投げやりな態度を表現する。「いくら」のような程度表現はなくても否定的な気持ちは伝わる。また、「いくら」の代わりに「どんなに」「なんと」のような表現も使われる。

どんなにがんばってみたところで結果的には同じことだ。

いくら隠してみたところで、もうみんなにはばれているんだからしかたがないだろう。

いくらいいドレスを買ったところで、どうせ着ていくところがないんだから無駄になるだけだ。

なんと話し合ったところで、彼らは自分の意見を変える気はないんだから、話し合うだけ無駄だ。

いくら頼んだところで、あの人は引き受けてはくれないだろう。

そんなに悲しんだところで、死んだ人が帰ってくるわけではない。

うちの夫は出世したところで課長どまりだろう。

あきらめや投げやりを語彙的意味としても「どうせ」もこの表現とともによく使われる。

県大会に出たところでどうせ1回戦で負けるに決まっている。

一方、以下の例では、「～たところで」が表れされる行為や事象があっても問題はない、大丈夫だという上例とは反対の、肯定的な気持ちを表している。この種の文ではその行為は否定的な内容であり、そうであっても対策が立ててある、あるいは強い決意があるからあきらめないという状況で使われる。⁷

列車の到着が少しぐらい遅れたところで問題はない。

なんと失敗したところで私は大丈夫です。決してあきらめません。

ただ、この種の状況では「～ところで」より、気持ちを表すという点では中立的な表現である「～ても」を使う方が自然に感じられる。

列車の到着が少しぐらい遅れても問題はない。

なんと失敗しても私は大丈夫です。決してあきらめません。

5) 「～と思ったら…」

以下の文に見られる「～と思ったら…」の表現は、「～」の部分でいぶかしく思う気持ちを表し、「…」の部分でその気持ちの原因・理由がわかってやった納得できたという気持ちが表される。

(『日本語文型辞典』p.62)

息子の姿が見えないと思ったら、押し入れの中で寝ていた。

何だか寒いと思ったら、窓が開いていたのか。

めがねがないと思ったら、こんなところに置き忘れていたよ。

冷蔵庫においしいそうなケーキがあると思ったら、お客さん用だった。

以下の文の「～と思ったら」は仮定の条件文で、帰結節が後続する（「と思えば」の条件文と同じである）。ここでは話し手の特別な気持ちはなにも表明されない。

だしが濃いと思ったら、水か湯で薄めてください。

(=だしが濃いと思えば水か湯で薄めてください。)

話し手のいぶかしみの気持ちを表す「～と思ったら」と、特別な気持ちを表さない通常の条件文とをどのように区別しているのか。結局はこの表現が発話される状況（広義の「コンテクスト」）であると考えざるを得ない。

6) 「くらい」「動詞基本形+くらいなら～」

副助詞「くらい」はだいたい程度・分量・範囲などを表すが、ものごとを簡単に、軽く考える気持ちを表す用法もある。後者の例では、文脈からそのような

気持ちが伝わってくるとしか言いようがない。

ここから次の町までは車で3時間ぐらいかかります。

そんなことぐらい子供でもわかる。ちょっと足がだるいぐらい、ふろに入ればすぐに直るよ。

すこし歩いたぐらいで疲れた疲れたって言うなよ。

1回や2回試験に落ちたぐらいがなんだ。

ビールぐらいしか用意できませんが、会議の後でいっぱいやりましょう

あいさつぐらいの簡単な日本語しか話せない。

指定された曜日にゴミを出さない人がいる。

自分一人ぐらいかまわないだろうと軽く考えているのだろう。

「動詞基本形＋ぐらいなら～」という表現では、動詞で表される物事に対する話し手の嫌悪感や否定的な気持ちを表す。

あいつに助けてもらうぐらいなら、死んだほうがまだ。

あんな大学に行くぐらいなら、就職するほうがよほどいい。

上から紙を貼って訂正するぐらいなら、もう一度はじめから書き直したほうがいいと思うよ。
銀行で借りるぐらいなら、私が貸してあげるのに。

君に迷惑をかけるぐらいなら、僕が自分で行くよ。

傘を取りに戻るぐらいなら、途中で安い傘を買ったほうがいい。

いま乳幼児をもつ親の世代は、子どもに受験競争が過熱し、「家事を手伝うぐらいなら勉強しろ」と言われた。

7) 「だいたい」

「だいたい」は「ほとんど、おおよそ」と同じように使われる副詞であるが、以下の例のように、無理なこと、非常識なこと、おかしいと話し手が思うことについて、非難の気持ちを表す用法がある。また、相手に文句や苦情を言ったり、非難したりするときの前置きとしても使う。

この本をひとりで日本語に翻訳するのはだいたい無理な話だ。

こんな時間に電話するなんてだいたい非常識な人だ。

だいたいぼくよりあいつの方が給料がいいなんて変だよ。

A: あの子、いつも忘れものをするらしいの。

B: だいたいね、注意してやらない君が悪いんだよ。

A: すみません、遅れまして。

B: だいたいだね、君は今まで時間通りに来たことがない。

8) 「～といい...といい」

「～といい...といい」の「～」「...」にはそれぞれ異なる名詞がくる。この表現は、名詞で表される物事に対して評価を下す表現で、名詞二つずつがセットになる。肯定的な評価にも否定的な評価に

も使われる。言い換えれば、話し手がこの表現を使うときには、そのあとに何らかの評価が述べられる合図となるということである。

社長といい、専務といい、この会社の幹部は古くさい頭の持ち主ばかりだ。

娘といい、息子といい、遊んでばかりで、全然勉強しようとしなない。

玄関の絵といい、この部屋の絵といい、時価一千万を超えるものばかりだ。

これは、質といい、柄といい、申し分のない着物です。

ここは、気候といい、景色といい、休暇を過ごすには最高の場所だ。

あのホテルといい、このレストランといい、観光客からできるだけ搾り取ろうとしているのが明白だ。

4. おわりに

本稿では、気持ちはどのように伝えられるか、また、伝わるかについて、ことばによらずに伝わる場合、気持ちは表す語彙によって伝えられる場合、言語外要素が本当の気持ちを伝える場合もあること

7. 以下の例では「たところで」に続く節である種の「冷めた気持ち」が表現されているように思われる。(出典は朝日新聞記事データベース。) 土地の上にへばりついているかぎり、時刻は一見絶対的だが、百年昔のポルムベスクの時代には誰も考えつかなかった感覚を、現代人は獲得している。飛行機とかスペースシャトルなどの特別の乗り物で、時間を追い抜いたり逆行したり出来ることを知ったおかげで、なあんだ、時刻なんて言ったところで、所詮自分と

と、そして語彙によってではなく、ある特定の表現やその組み合わせによって伝えられる場合、文の終わりまで聞かなければ話し手の気持ちがわからない場合などについて考察した。さらに考察対象を拡大して調査すること、また、気持を好感・反感、肯定的・否定的を単一の分析軸でとらえるのではなく、別々の軸で考えたほうがより精密な分析ができると思われる。

注

1. 本田晶治、2007、日本人のコミュニケーション観、*Ars Linguistica* Vol. 14、日本中部言語学会。
2. 本節の事例の出典は朝日新聞記事データベース。下線は筆者による。
3. 有賀千佳子ほか編『ことばの意味を教える教師のためのヒント集 気持ちを表すことば編』武蔵野書院、2001。
4. 「人間は、顔つきからその人の気持ちを読み取ろうとするものだ。目元や口元のわずかな変化で、心中を押し量ったりする。」(朝日新聞、2011年6月15日、夕刊)
5. 本節の例文の出典は、断りのない限り『日本語文型辞典』。下線は筆者による。
6. 例文は朝日新聞記事データベースから。

太陽との、相対的な関係が在るだけではないの? という、地上にはびこる生きものとしては、本来持つてはならない覚めた実感のことだ。

参考文献

- グループジャマシイ (砂川友里子代表) 編、1988、『日本語文型辞典』くろしお出版、東京。
- 本田晶治、2007、日本人のコミュニケーション観、*Ars Linguistica* Vol. 14、日本中部言語学会。

例文出典

グループジャマシイ（砂川友里子代表）
編、1988、『日本語文型辞典』く
ろしお出版、東京。

朝日新聞記事データベース CD-
HIASK '99、紀伊國屋書店、東京。

